

令和5年度 学校評価報告書 【大洲市立平野中学校】

教育目標『ふるさと平野を愛し、誇りを持ち、地域に貢献できる子供の育成』

- 経営の重点
- 連携を深め、地域のよさを生かした特色ある学校づくりを推進する。
 - 「生きる力」を育み、全ての子どもたちが輝く学校づくりを推進する。
 - 心の教育の充実を図り、認め合い支え合う温かい学校づくりを推進する。
 - 教職員の資質と指導力の向上を図り、信頼される学校づくりを推進する。

〔評定 A：順調 B：概ね順調 C：あまり順調でない D：順調でない〕

区分	具体的事項	取組・評価結果	○成果 ●改善	評価委員の意見	評定
教育課程・学習指導	・分かる授業 ・基礎学力の定着 ・思考力・判断力・表現力の育成 ・家庭での学習習慣の定着 ・道徳教育の充実 ・人権・同和教育の推進 ・キャリア教育の充実 ・生徒会活動の充実	・1人1台端末の利活用による、個に応じた分かる授業の展開 ・朝ドリル(5教科)の実施による基礎学力の定着 ・全校話し合い活動によるコミュニケーション力の育成 ・「自主学習ノート」を活用した主体的な家庭学習習慣の育成 ・人権集会・人権セミナーの実施 ・職場体験学習の充実 ・行事等での生徒一人一人が活躍できる場の設定	○ タブレットの利活用により、学習に対する取組や成果が数値化されて本人が把握することができ、学習に対する意欲化につながることができた。 ● 家庭学習習慣について個別の指導を充実させるとともに、生徒主体の啓発活動を行い、改善を図る。 ● 県立高校再編、入試制度の変更に係る指導を計画的に実施する。	・少人数ながら全員が発言や活躍の場があり、しっかり成長しているように思う。 ・数名の、学習が苦手な生徒への支援を充実させてほしい。 ・家庭学習の習慣付けは大切なので、継続して指導する必要がある。	A
生徒指導	・元気な挨拶 ・規範意識の向上 ・生徒理解の充実 ・いじめ・不登校への対応 ・信頼関係の構築	・生徒会主体の挨拶活動の活性化 ・「学校生活アンケート」「いじめアンケート」の実施 ・毎日の言葉掛けや日記指導による生徒理解と信頼関係の構築 ・定期的な教育相談活動の実施 ・いじめ・不登校等に関する教職員研修の充実	○ 生徒指導対応において、教職員の共通理解のもと組織で対応することができた。 ○ 教育相談において、生徒に寄り添い、傾聴・対話を重視した対応に努めた。 ● 元気な挨拶が響く学校を目指し、教職員や生徒会のリーダーが率先して挨拶をすることでその意識を高める。	・挨拶ができている生徒とそうでない生徒の差が大きい。自分から先に挨拶をする習慣をつけさせたい。 ・数年前に比べ、挨拶の声が小さく、はきはきしていない。相手を見ることも大切である。	B
健康・安全管理	・健康安全教育の充実 ・交通安全指導の徹底 ・施設・設備の安全管理と衛生管理 ・避難訓練、防災学習の充実	・生徒一人一人の生活習慣の実態把握と家庭と連携した指導の充実 ・家庭と連携した新型コロナウイルス感染症対策の継続実施 ・PTAや地域と連携した挨拶活動を兼ねた登校指導 ・毎月の安全点検と営繕 ・様々な災害発生時の避難訓練 ・各種講演会の実施	○ 予告なしの避難訓練や防災についての話し合い活動により、生徒は緊急時の対応について考えを深めることができた。 ● メディア時間が長く、就寝時刻が遅くなっている生徒には、自己管理能力を高めるための働きかけとともに、家庭と連携した指導の継続と強化を図る。	・通信機器とのよりよい付き合い方、使用方法を生徒だけでなく、保護者と一緒に考えられるとよい。 ・小学校と同じ課題がある。一貫教育実践校として、小中学校で家庭と連携して対応するとよい。	A

保護者・地域との連携	・広報活動の充実 ・幼小中や地域との連携を重視した「ふるさと学習」の充実 ・コミュニティ・スクールを生かした活動 ・PTA活動の充実	・ホームページ、校報、各種通信等による情報発信 ・ふるさと学習、学校行事における幼小中や地域との連携 ・学校運営協議会での審議内容を生かした学校運営 ・学校行事や参観日の公開 ・学校行事におけるPTAや地域との連携	○ ホームページや校報を通して、生徒の活動の様子とともに、学校の取組について発信できた。 ○ 4年ぶりの地域行事の開催により、生徒は地域の一員であることを自覚し、自分から地域に貢献したいという意欲を育てるよい機会となった。 ● 「ふるさと学習」の「牛鬼巡行」や「しめ縄作り」等については、生徒数の減少や協力者の意向を考慮し、よりよい実施方法について検討する。	・交流活動の積み重ねにより、園児に対して優しい声掛けができ、コミュニケーション力も育っている。 ・幼小中・地域との交流は平野ならではのと思うので、続けてほしい。 ・情報発信の効果が十分発揮されている。 ・小中連携において、小・中の方向性が合致していないと感じる。	A
	・有意義な学校生活 ・学校行事の充実 ・部活動の充実	・生徒会による自主的な活動 ・生徒主体の学校行事の実施 ・ルールに沿った部活動の充実	○ 「ふれあい運動会」や「学習発表会」において、生徒の意見を取り入れ、一人一人が活躍できる場を設定したことで、積極的に取り組むことができた。 ● 生徒会活動や部活動に対して、多忙感を感じている生徒・保護者がいる。適宜、短期的な目標、長期的な目標を示したり、達成度合いを確認したりすることで、生徒の自己満足度を高めていきたい。	・運動会では、けがをしている生徒もできることを任せられたり、自分で見つけたりして、一人一人が活躍していた。 ・学習発表会では一人の取組をみんなで盛り上げ、全員で楽しんでおり、感動した。 ・行事で生徒の頑張る姿を見ることができてよい。	A
その他	働き方改革	・教職員一人一人の意識改革 ・適正な勤務時間の設定 ・行事の精選 ・会議の効率化	○ 業務改善につながるよう、会議の精選、ICTの活用、専門人材や外部人材の活用に取り組むとともに、「見通しを立て、計画的に取り組む。」「担当者対応と組織対応の調和を図る。」等の意識付けを行った。	・早めの帰宅を意識してほしい。 ・大変忙しいとは思いますが、生徒たちのため、よろしくお願いします。 ・教職員に、ある意味諦めの気持ちがあるのではないかな。	A
	総括	保護者・地域の支援を得るとともに、生徒の主体性を生かす場を設定することで、充実した教育活動を実施することができている。今後も学校・家庭・地域が連携した協働活動を推進するとともに、個に応じた学習指導・生活指導を充実させることで、生徒の可能性を引き出す教育の展開に努めたい。			